

第3回「消防力の維持・強化のための消防体制の構築に関する検討会」
議事概要

1 日時：2023年3月27日（月）15:00～17:00

2 開催方法：Web会議形式

3 出席委員（五十音順）

磯打 千雅子 香川大学創造工学部特命准教授

井田 知也 近畿大学経済学部国際経済学科教授

伊藤 正次 東京都立大学大学院法学政治学研究科教授

大石 健二 北海道とちか広域消防局長

角田 悠紀 富山県高岡市長

木村 俊雄 神奈川県寒川町長

小池 重一 大阪府危機管理室長※

(座長) 原田 久 立教大学法学部教授

廣井 悠 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授

福田 和幸 熊本県熊本市消防局長

本山 和平 高知県高知市消防局長

山崎 剛 茨城県防災・危機管理部長

※ 田淵消防保安課参事が代理出席

オブザーバー

吉田 敏治 全国消防長会事務総長

4 議事経過

(1) 開会

(2) 議事

(i) 消防の広域化の推進に係る課題と対応

(ii) 広域化の好事例（事例発表）について

・高岡市「高岡市における消防広域化等の取り組み」

・熊本市消防局「熊本地震への対応における広域化の効果」

・大阪府危機管理室「大阪府における消防広域化等の取り組み」

(iii) 意見交換

(3) 閉会

5 議事概要

(i) 消防の広域化の推進に係る課題と対応

資料に沿って事務局が説明

(ii) 広域化の好事例（事例発表）について

資料に沿って

- ・高岡市「高岡市における消防広域化等の取り組み」
- ・熊本市消防局「熊本地震への対応における広域化の効果」
- ・大阪府危機管理室「大阪府における消防広域化等の取り組み」

がそれぞれ説明。

(iii) 意見交換

- 住民の方々にとっては広域化の影響は実感しづらいが、消防の広域化等により、管轄区域を越えた出動・応援が増加したというデータからすると、広域化の効果を受けている住民が少なからず存在する。
- 広域化の議論は、粘り強い作業が必要で、ある程度のタイムスパンで考えていく必要があるのではないかと。また、消防の広域化は消防本部の課題と思われがちであるが、都道府県の役割が非常に大きく、都道府県の関わりにより広域化の進展度が変わるとされる。他方で、消防庁は財政・人的支援以外に、好事例の横展開といった情報提供の観点から各消防本部の広域化に貢献していくことが必要ではないかと。
- 消防の広域化においては、都道府県が大きな役割を担っているとともに、地域の中心的な消防本部が、特に消防本部間の調整の点で非常に重要な役割を果たすのではないかと。一方で、中心的な消防本部には広域化のメリットがあまりなく、誘因強化策として、都道府県と同様に財政支援を行うべきではないかと。また、将来的には、財政支援や都道府県によるサポートでは、自主的な広域化は難しくなるため、規制誘導策により中心的な消防本部をある程度設定して広域化を実施することが必要になるのではないかと。
- 財政面に加え、消防力のシミュレーションを行い、将来視点での広域化のメリット、デメリットを対象の消防本部ごとに明示することが広域化を推進する上で重要ではないかと。

- 広域化が難しい地域においても、連携協力を活かして中長期的に広域化にたどり着くという方針、工夫もあり得るのではないか。
- 広域化に伴い、事務を受託する中心的な消防本部においては、事務負担の増加や、消防力の流出の懸念があるため、財政面を含め支援することが重要ではないか。一部事務組合設立に伴う事務負担に関しては、課題解決のために好事例を展開するとともに、人的・財政的サポートができないか。
- 消防広域化を連携中枢都市圏や定住自立圏等の広域連携施策と関連付けることを検討するべきではないか。
- 広域化の運用が軌道に乗るまでの期間、事務部隊を派遣するなど、直接的な支援について考えてもよいのではないか。また、広域化後の職員の生の声を届けることで、広域化に取り組む団体の意識向上につながるのではないか。
- 広域化により、潜水土が増え、救助所要時間の短縮に加え、海難事故への円滑な対応は隊員にとっても自信につながったと思う。このように、各現場においてもスケールメリットが存在すると思う。一方で、広域化に取り残された団体に対しては、広域化した消防本部から声はかけにくく、都道府県が積極的に関与していくことが重要であると感じた。
- 広域化が実現した消防本部からは、広域化前は指揮隊が存在していなかったため、指揮隊により統一された指揮命令下において現場活動ができることがメリットであるという声がある。また、訓練回数の増加や豊富な水利、充実した出動隊数により、現場活動が充実しているという声も聞いている。
- 広域化の議論は、消防本部だけの議論では結論に至らない場合が多いと感じているため、市町村という枠組みで議論することが重要であり、そのためには都道府県の役割も非常に重要。また、議論の際には将来的なメリット・デメリットを伝えることや、小規模消防本部だけでなく大規模消防本部にもメリットがあることも伝えていくことが必要で、事例ではなく、シミュレーションを見せることが重要。
- 都道府県が働きかけをしても、熱心な市町村長や消防本部がいないと広域化は進まない。将来のシミュレーションを資料化することは重要だと思

うが、それを消防本部や市町村長のみで留めるのではなく、広く議論してもらうような枠組みも必要ではないか。

- 組合消防になることにより、議会对応や条例改正、様々な付属の機関の事務の負担が発生する。一方で、広域化することで、発災時の体制確保ができたとともに、広域化が実現した消防本部の職員からは、規模が大きい本部で勤務することによるモチベーションの向上などの意見があり、職員の意識の活性化も広域化のメリットだと思っている。広域化の財政支援については、例えばシステム関係では、広域化後も更新が必要となるため、継続した支援が必要であると思っている。
- 広域化の実現には、指令の共同運用が伏線になったと感じている。また、以前から消防職員の人事交流もしており、市民・町民に対しての確たる安全の確保ということで、広域化という選択をした。当初は懸念もあったが、現在は現場到着時間も短縮されており、体制も充実している。広域化前の不安材料が解消されているという実態があり、他の地域の方には、是非広域化について前向きに捉えていただきたい。

以上